

台湾出張報告

～環太平洋大学協会（APRU）年次学長会議 2018 に出席して～

6月24日から26日にかけて、台湾（台北）で開催された環太平洋大学協会（Association of Pacific Rim Universities : APRU）の年次学長会議 2018 に出席しました。APRUは、環太平洋地域を代表する大学によるコンソーシアムで、環太平洋地域の高等教育の相互の連携を強化し、環太平洋地域が21世紀に直面している諸問題について、教育・研究面で貢献することを目的に1997年に設立されました。

本学は2017年に入会し、今回、初めて年次学長会議に出席しました。



写真1：APRU年次学長会議参加者集合写真（Photo Courtesy of APRU International Secretariat）

2018年のAPRU年次学長会議は、「Our Digital Future in a Divided World」をテーマとして、国立台湾大学主催で開催されました。カリフォルニア大学ロサンゼルス校、シンガポール国立大学、延世大学、香港大学、ブリティッシュ・コロンビア大学、ロシア極東連邦総合大学等27大学の学長をはじめ、世界15カ国と地域から111名が参加し、日本からは、本学のほか、東北大学、大阪大学、慶應義塾大学、早稲田大学が参加しました。

24日には、歓迎の式典と晩餐会が開催され、APRU代表のDr. Gene D. Block（UCLA Chancellor）から、本学を含め6つの新メンバー大学の学長が紹介されました。新メンバーの学長は壇上で、簡単な大学紹介などのスピーチを行うと同時に、メンバー証が授与されました。



写真2：メンバー証授与



写真3：新メンバー紹介 (Photo Courtesy of APRU International Secretariat)

25日には、年次学長会議 2018 に参加しました。年次学長会議では、国立台湾大学元学長による講演や、テーマに関するパネルディスカッション、APRUの戦略に関するグループ討議等が活発に実施されました。

26日には、プレジデンシャル・フォーラムが実施されました。このフォーラムは、学長6名がパネリストとなり、2つのテーマにそってそれぞれの大学の取組や今後のAPRUの活動に対する提言を述べるもので、世界の有力な学長が集まる機会が少ない中、学長の胸中にある意見を積極的に交換する貴重なフォーラムでした。「Our Digital Future in a Divided World: Opportunities and Challenges for Research Universities」をテーマとするフォーラムには、パネリストとして登壇しました。デジタル革命は、高等教育機関が直面する重要な岐路であり、新しい分野としてのデジタルサイエンスばかりでなく、学問分野の発展を包括的に推進する技術としてとらえることも必要です。インターネットなどの普及によって多様な価値観が広く社会に広がる世界で、大学がどのような役割を果たしていくか等について、忌憚のない議論がなされました。



写真4：パネルディスカッション



写真5：プレジデンシャル・フォーラム

現在の分断した世界におけるデジタル革命の意義を検証するにあたって、大学の歴史的な意義を踏まえることの必要性について、問題提起をしました。中世ヨーロッパにおいては、教会と大学が「知」を独占していた状態にありましたが、15世紀の活版印刷技術の進歩によって、「知」は出版を通じて広く社会に開かれることになりました。現在、私たちは多くの情報をインターネットを通じて入手することができる時代にあり、大学は新しい「知」を創出することが求められています。これは、大学の役割を再考する時期にあるという課題です。

また、APRUでは、休憩時等に参加者と懇談できる時間が多く設けられているため、チュラロンコン大学、延世大学、KAIST、国立台湾大学等の協定校をはじめ、多くの学長と意見交換を行い、親交を深めました。



写真6：シンガポール国立大学 Prof. TAN Eng Chye 学長



写真7：チュラロンコン大学 Prof. Bundhit EUA-ARPN 学長



写真8：マラヤ大学 Prof. Abdul Rahim HASHIM 学長



写真9：香港中文大学 Prof. Rocky TUAN 学長